二〇二二年一〇月一日（参加者二〇名）

澄む水の底石に日のとどきけり　満天
水澄むや砂舞ひ上がる外れ銛　隆松
神の島鎮めて湖水澄めりけり　はく子
奈良町のいづこも柿のたわわなる　みづき
目潰しの朝日をはねて水澄める　豊実
一と品はお裾分けなる柿膾　わかば
水澄むや老船頭の土地自慢　たか子
社家町をめぐる神水澄めりけり　もとこ
柿熟るる皇子落ち延びし峡深く　うつぎ
青空に散りばめしごと山の柿　あひる
行く雲を湖面に映し水澄める　わかば
洗ひ場の戸毎の水の澄みにけり　はく子
夕映をはじく山家の柿簾　かかし
古伊万里の鉢に山盛り柿サラダ　もとこ
山峡に煙一筋柿たわわ　うつぎ

生り放題落ち放題や山の柿　うつぎ
過疎村に残る大家の木守柿　ぽんこ
空の青引き寄せ水の澄みませり　明日香
澄む川を遡りゆく流れ雲　隆松
茜雲散らして湖の澄めりけり　素秀
山麓の里の棚田の水澄める　満天
澄む川の水草隠れに稚魚の群　ぽんこ
澄む水にゆるり向き変ふ錦鯉　豊実
川底の岩泰然と水澄める　明日香
兄まねてぼくと言ふ女児柿をもぐ　よう子
柿たわわなる大和路を巡拝す　宏虎
澄む水を一閃したる鳥の影　素秀

WEB句会みのる選・二〇二二年一〇月一日